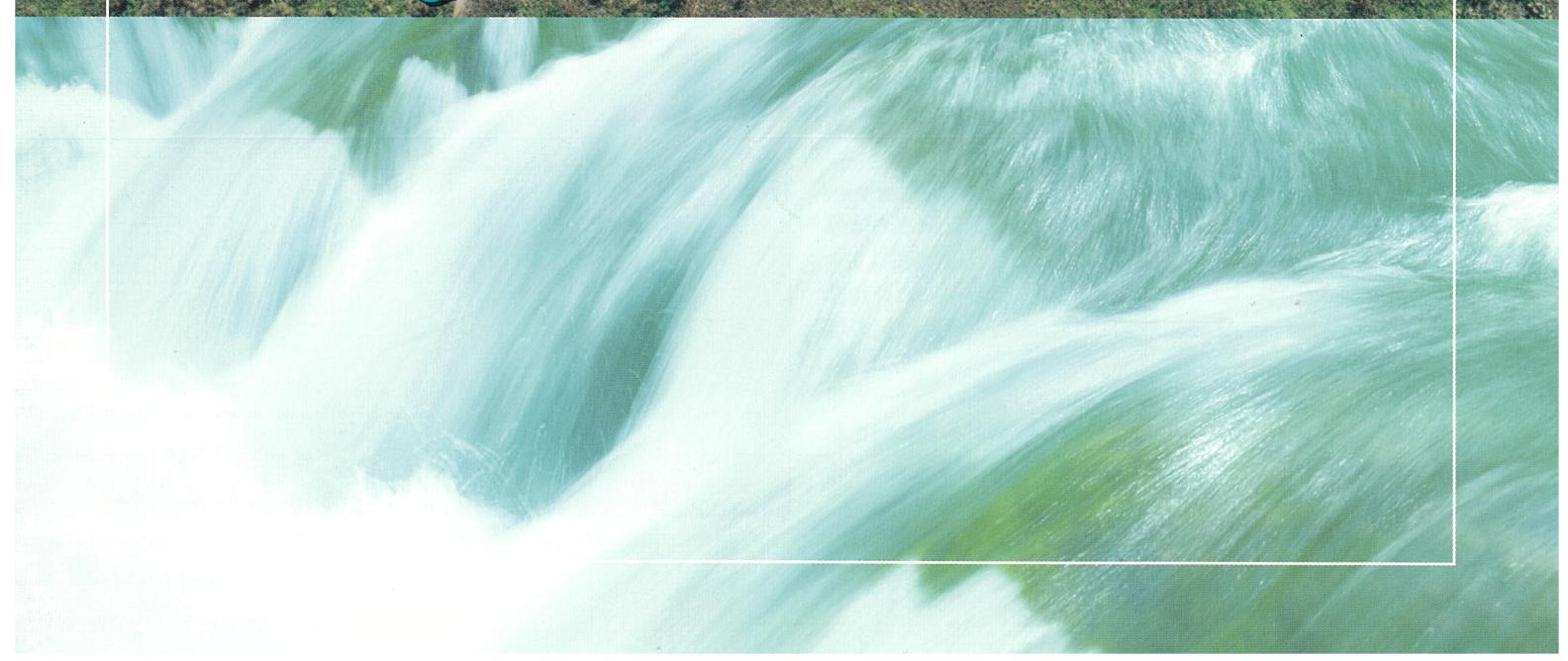


山の水道



ご家庭の水道のしくみ

給水装置はみなさんの大切な財産です

●給水装置とは

水を送るために、公道に埋められた配水管といいます。この配水管から分岐(分水栓)して家庭まで引き込まれた給水管と、直結する給水用具(止水栓、水道メーター、弁類、給水栓(蛇口)、給湯器など)を「給水装置」といいます。

●ビルやマンションなどの場合

分岐(分水栓)から受水槽のボールタップ(水を自動的に出したり、止めたりする装置)までが「給水装置」です。

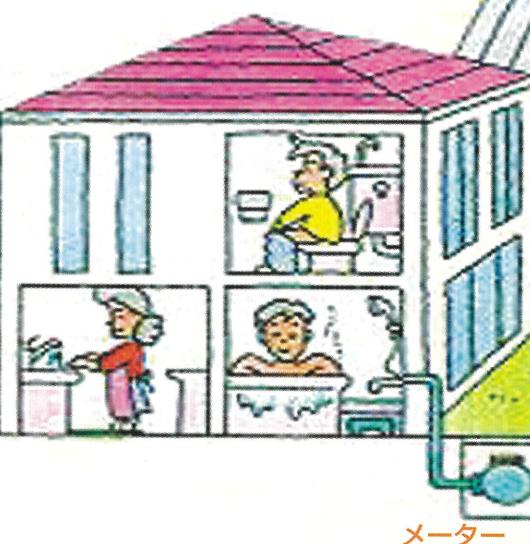
●水道施設の管理区分

公道に埋められた配水管までは市の所有物で市が管理しています。この配水管から分かれて家庭まで引き込まれた給水装置は設置者の所有物です。したがってこの部分の新設、改造、修理などの費用は皆様のご負担で行っていただくこととなります。

●給水装置工事の手続きについて

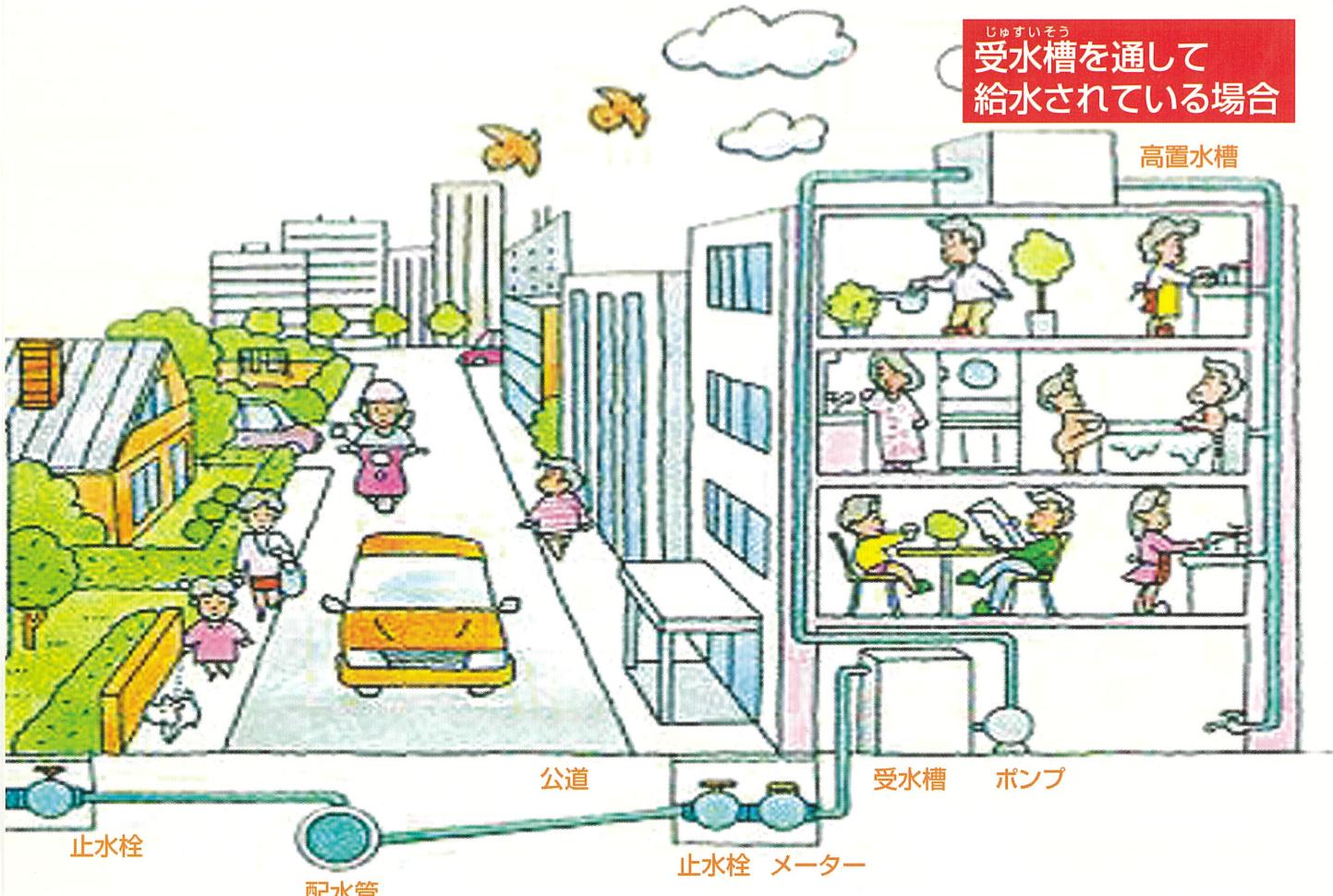
給水装置工事を行おうとする方は、水道課に給水装置工事の申し込みを行い、予め承認を受ける必要があります。工事施工は、富良野市の指定を受けた給水装置事業者でないと出来ないことになっています。

直接給水されている場合

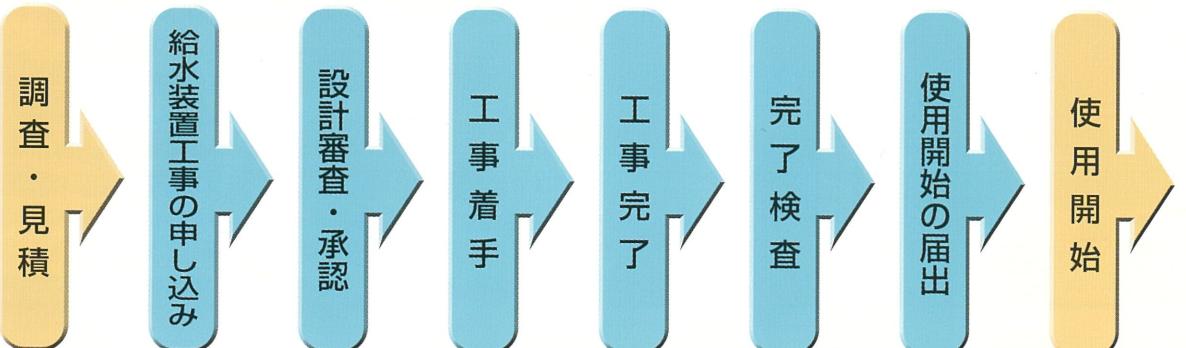


じゅすいそう
受水槽を通して
給水されている場合

高置水槽



工事手続きフロー



水道の豆知識

●赤い水

水道工事や断水などのために、水管の中を流れている水の速さや方向が変わったとき、蛇口から赤い水が出ることがあります。これは水管の中の鉄さびが原因です。すこしの間、水を流しておくときれいになります。

●白い水

工事の後などで白い水の出ることがあります。これは水の中に小さな気泡(空気)が入るためです。しばらくそのままにしておくときれいな水になります。安心してお使い下さい。

●塩素(カルキ)のにおい

水道の水が一般的に「塩素くさい」といわれています。臭いは塩素という消毒用の薬が入っているからです。これは水が完全に消毒されている証拠ですから安心してお飲み下さい。

●蛇口やヤカンに白いものがつく

水道水が蒸発した後に残ったミネラル分です。水道水はカルシウム、マグネシウムなどのミネラル分が含まれているからです。時々洗浄したり、こまめにふき取りを行って下さい。

水道の相談・届け出

次のようなときは、必ず水道課へお届けください。

●新たに水道を使用するとき

【給水装置工事の届け】

家を新しく建てるときや増改築などで、水道を新築、改造、撤去するとき（指定工事業者に申し込みください。指定工事業者では皆さんに代わって必要な書類を取りそろえて水道課へ届けます）

【水道の使用届け】

家を新築したとき
引っ越ししてきたとき

●水道の使用をやめるとき

【水道の使用中止届け】

引っ越ししていくとき（届け出は、3～4日前にお知らせください）

家の改築や、長期間留守にするときなどで、一時水道を止めたいとき

●その他の変更があったとき

【変更届け】

使用者や所有者が変わったとき
用途などに変更があったとき



水道の故障と修理の申し込み

●水道管から水が漏れているとき

指定工事業者へ修繕の申し込みをしてください。

●道路から水が出ているとき

水道課へご連絡ください。放っておくと水が無駄になるばかりでなく、路面の陥没や、特に冬の夜などは路面が凍って交通事故の原因になり危険です。ぜひ水道課にお知らせください。

●水道が凍って水が出ないとき

タオルなどをかぶせ、その上からゆっくりとぬるま湯をかけてとかします。急に熱湯をかけると水道管や蛇口が破裂することがありますので注意しましょう。

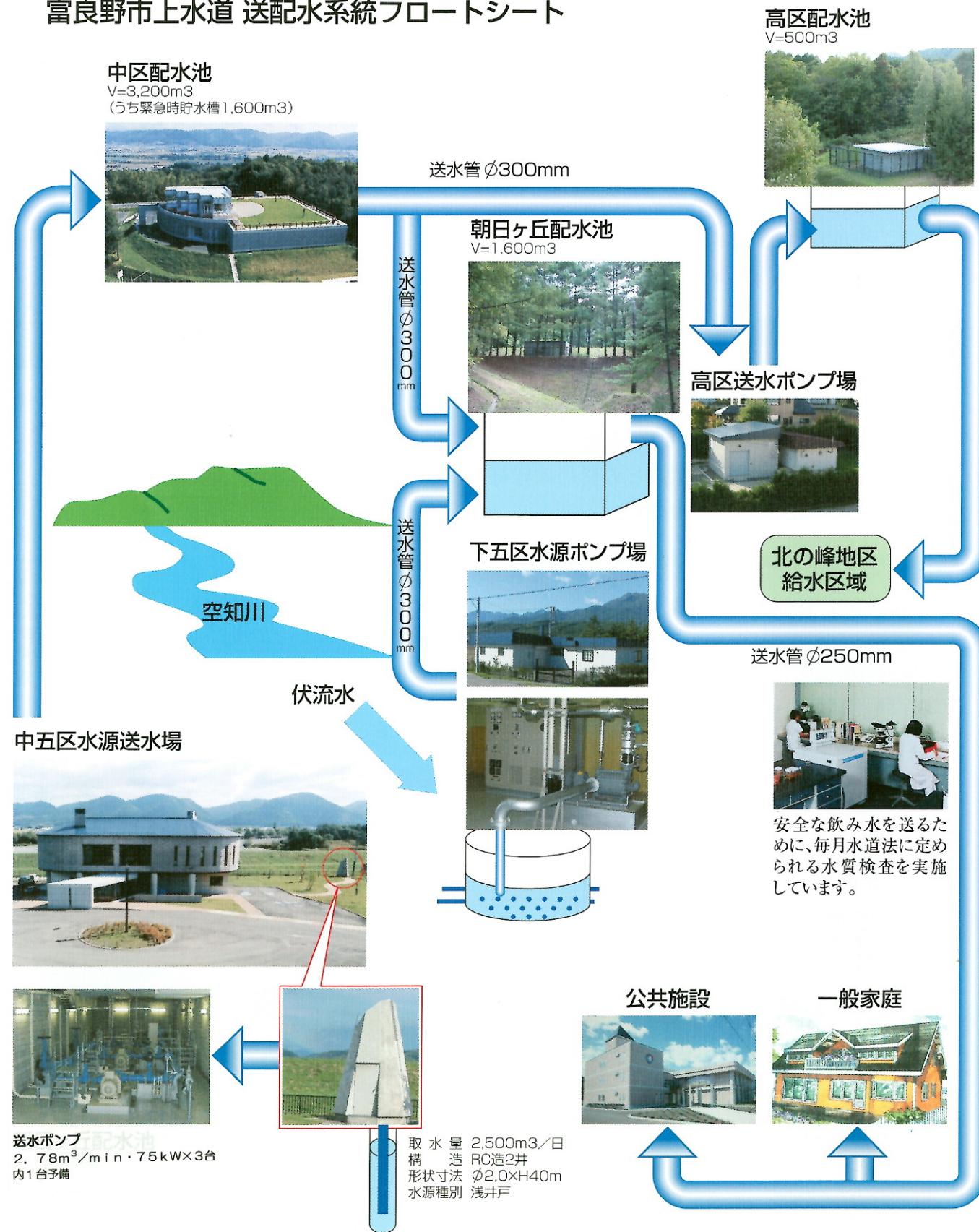
●水道管が破裂したとき

とりあえず水抜栓やバルブなどを閉めるなど水をとめてから指定工事業者に修理を申し込みください。



安全な飲み水が家庭にとどくまで

富良野市上水道 送配水系統フロートシート



水道事業のあゆみ

【創設事業】

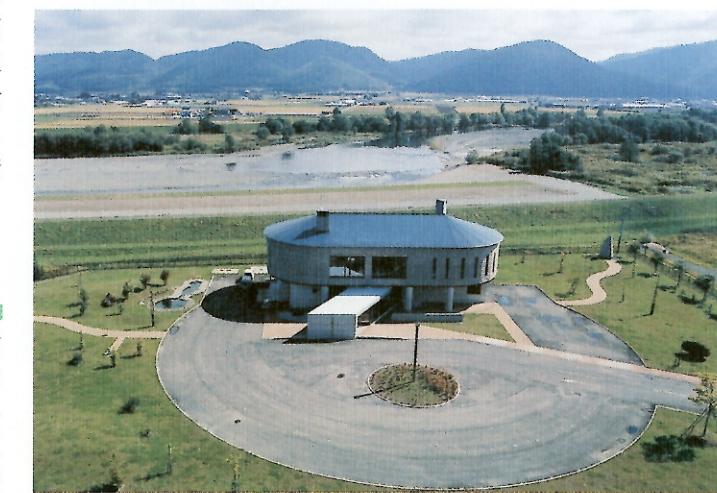
富良野市の水道は、昭和37年11月市民の公衆衛生の向上と生活環境の改善を目的に、水道事業の経営認可を申請し同年12月28日に認可され、昭和38用地取得、昭和39年6月工事着手しました。水源を地下水（浅井戸）に求め計画最大給水量3,000トン計画給水人口15,000人にて昭和39年11月、ポンプ直送による給水開始がされました。

【第一次拡張事業】

昭和39年の通水時に給水戸数228戸給水人口970人から始まった事業も順調に給水戸数が増え続け、生活水準の向上と共に日最大3,000トンを越え水圧、水量の不足による給水への影響が生じたため、給水量を1日最大4,480トン給水人口16,000人として給水区域も拡張する事業変更申請を提出し昭和49年7月認可され、直送方式から配水池を(1,600トン)を新設し自然流下方式による安定給水を確立されました。

中五区水源送水場

平成9年3月に完成した送水場は、地下1階、地上2階で中央監視室、水質試験室などを設備し集中監視を行う。水源は地下水で深さ40m井戸径2,000mm×2井と50m井戸径300mm×1井から取水し、特徴として地下30m地点に不透水層があり豊富で良質な原水のため滅菌処理のみで供給している。



【第二次拡張事業】

目標年次昭和58年を向かえ、1日給水量を4,742トン実績で最大給水量を越える日を記録するようになり、並行して都市計画区域の見直しから、給水区域の変更を求められ目標年次を昭和68年とし計画給水人口18,500人計画最大給水量6,500トンに変更、給水区域も拡張した事業を始め、高区（北の峰地域）配水池500トンの新設及び送水ポンプの取替え整備など給水体制を確立しました。

【第二次拡張事業変更】

過去二回にわたる拡張事業により、安定した給水を続けて来ましたが、近年の空知川河川改修工事等により河床及び河川水位が低下し、水源の井戸水位も低下し、計画給水量の取水も困難となってしまいました。この為、新しい水源を開発し安定した取水の確保に努めると共に、水需要の増加に対応するため水源取水地点を変更する、第二次拡張事業の変更を提出し平成5年3月認可され、目標年次を平成14年として、中五区に水源を求めて地下水（深井戸）にて豊富で安定した取水を確保すると共に送水ポンプ場を新設し、導、送水管の新設及び配水管網の整備を行い、併せて老朽管（石綿セメント管）の布設替えを実施し安全で安定した給水体制を確立しました。

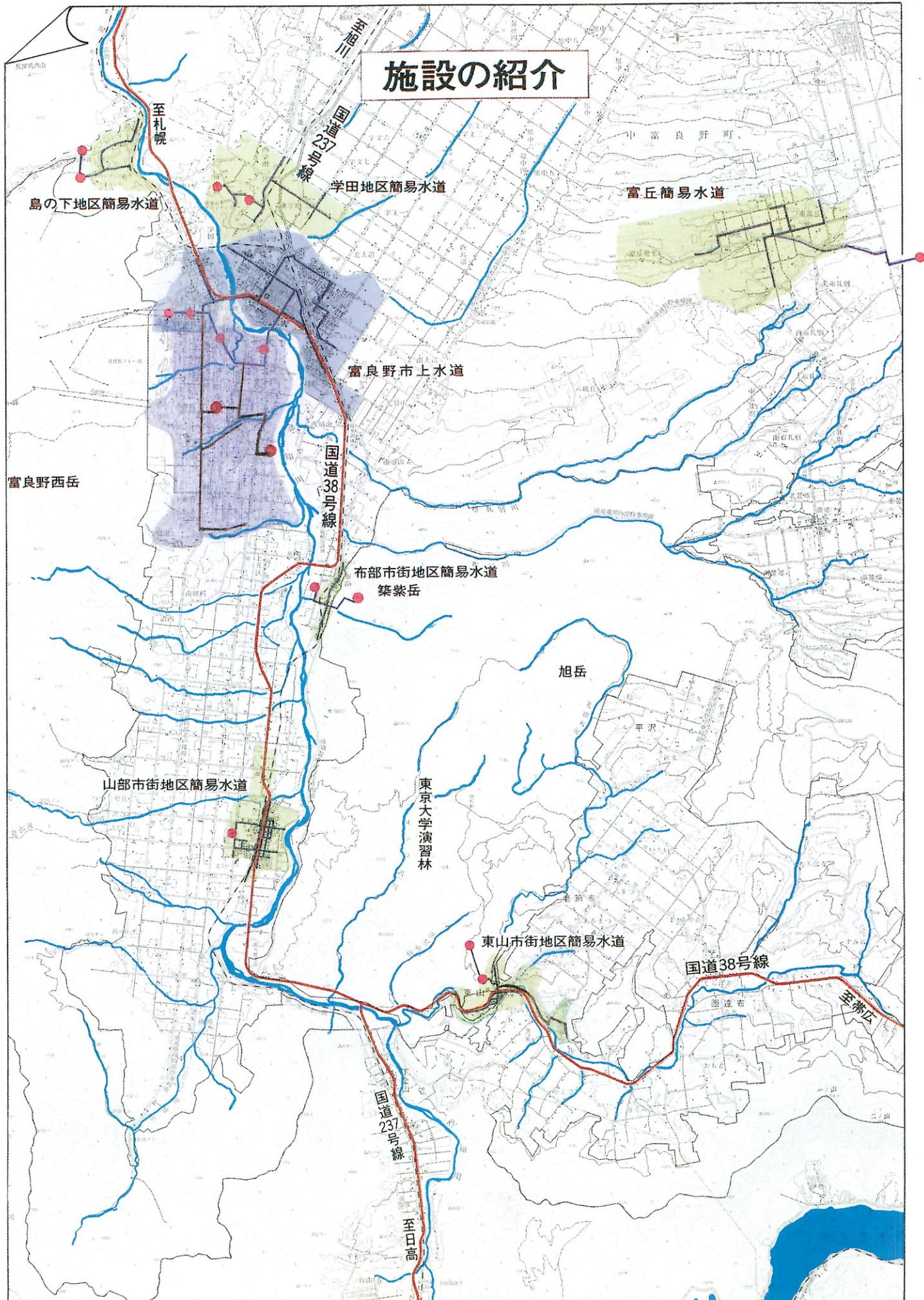
中五区配水池

平成14年2月に完成した配水池は、地下1階、地上2階で貯水能力は3,200トン（災害時など1,600トンが緊急貯水用として確保される）配水池屋上を多目的広場とし、建物二階はガラス張りの明るい屋内展望室となっていて、大雪山系、夕張山系を一望できる施設で一般開放しています。展望室では富良野のおいしい水が飲用できる水飲み台を設置しています。



【第三次拡張事業】

平成14年を目標年次にした事業にて豊富で安定した取水の確保はできましたが、配水量については年々増加をたどり水需要は益々増え続けていることから、昭和58年に計画した6,500トンの計画給水量の見直しを行い、平成18年を目標とし水道未普及地区的給水に困窮している地域を給水区域に取入れた拡大を図るため、計画給水人口19,000人、1日最大給水量9,000トンに変更する事業変更申請を提出し平成9年4月認可され、中御料の丘に配水池3,200トンを新設し、うち1,600トンを緊急災害時の貯水槽として蓄えることができ、上水道の安全で安定した水の供給を確保すると共に増加する水需要にも対応できる体制を確立しました。



施設の紹介

富良野市簡易水道施設の紹介

島の下地区簡易水道

【創設事業】

認可年月日 昭和57年5月20日
給水開始 昭和57年12月1日
計画給水人口 130人
計画最大給水量 52トン/日
水源の種別 地下水(浅井戸)
浄水方法 減菌のみ



【第一次拡張事業】

認可年月日 平成3年4月26日
計画給水人口 160人
計画最大給水量 252トン/日
水源の種別 表流水
(空知川支流尻馬内川)
浄水方法 急速濾過

島の下地区は、富良野の北西部に位置し、畑作を中心とする農業地域で、ラベンダー香るリゾート施設「ハイランドふらの」を有し観光の中心となっている地域である。地下水を水源とし昭和57年に事業認可を取得し給水していたが、観光客の急増と生活水準の向上に伴い最大給水量を大幅に上回り、地下水から安定した表流水に切替え急速濾過にて浄水させ配水池を市有林に置き自然流下にて給水している。

布部市街地区簡易水道

認可年月日 平成元年4月8日
給水開始 平成2年4月1日
計画給水人口 450人
計画最大給水量 135トン/日
水源の種別 地下水(深井戸)
浄水方法 減菌のみ



布部地区は、空知川と筑紫岳に挟まれた平野部で畑作を中心とする農産物の主要生産地帯である。豊富で良質な地下水(深井戸)を水源とし、東京大学演習林地に配水池を置き、自然流下により給水している。

学田地区簡易水道

認可年月日 昭和61年4月1日
給水開始 昭和62年1月1日
計画給水人口 290人
計画最大給水量 84トン/日
水源の種別 地下水(深井戸)
浄水方法 減菌のみ



学田地区は、富良野川左岸の平野地及び清水山東部の急流地帯を含む地域で、水田耕作、畑作、ブドウ栽培と農産物産業の主要地帯であり、「ふらのワイン」「ぶどう果汁」を生産している農産加工施設が立地している地域である。水源を地下水とし、清水山に配水池を置き自然流下により給水している。

山部市街地区簡易水道

認可年月日 昭和58年4月25日
給水開始 昭和58年12月1日
計画給水人口 2,050人
計画最大給水量 665トン/日
水源の種別 地下水(深井戸)
浄水方法 減菌のみ



山部地区は、芦別岳の裾野に展開する扇状地帯に発達し、市街地はこの扇状地帯の東に位置し、地域経済の中心地帯である。豊富で良質な地下水(深井戸)を2井持ち山部中学校に隣接した浄水場で加圧制御方式によるポンプ直送水をしている。

富丘地区簡易水道

認可年月日 昭和35年6月23日
給水開始 昭和35年8月1日
計画給水人口 600人
計画最大給水量 90トン/日
水源の種別 源水
(布礼別川支流無名川)
浄水方法 減菌のみ



富丘地区は、富良野岳の山麓に位置する畑作地帯である。富良野岳の裾野、ペベルイ地区に豊富で良質な湧水を水源とし、自然流下により給水している。

東山市街地区簡易水道

【創設事業】
認可年月日 昭和55年7月2日
給水開始 昭和56年1月1日
計画給水人口 500人
計画最大給水量 100トン/日
水源の種別 表流水
(老節布川支流東川)
浄水方法 緩速濾過



東山地区は、西達布川と老節布川の合流点で大正初期より林内植民者の生活の中心地として市街地が形成した地域である。水水源は東京大学演習林地内にて表流水を取得し緩速濾過方式にて浄化し配水池より自然流下により給水していたが、平成5年1月の釧路沖地震に始まり三度の地震により原水が高度に白濁し緩速濾過方式では水処理ができない状況におちいってしまったため、浄水方法を急速濾過方式に変更し、水質の安定を図り給水している。